

平成 27 年度 事務事業評価シート 【 事後評価 】

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計	款	項	目	事業コード	事業名	
一般	03	02	01	0412	イーハートブ養育センター整備事業	
総合計画	分野	暮らし				
	政策	2-5	福祉の充実			
	施策	3	障がい者福祉の充実			
目的	児童発達支援、放課後等デイサービス及び多機能型事業所の施設の整備					
対象	障がい児及び重症心身障がい児・者					
意図	通所による障がい児の療育・保育及び重症心身障がい児・者への支援を行う。					
事業概要	…上記目的を実現するための事業手法を記載すること					
○児童発達支援施設の整備 イーハートブ養育センターの施設整備にかかる基本設計及び諸調査（地質調査、測量調査）等を行う。						
市民参画の有無 [対象]						
市民協働の形態		共催		実行委員会・協議会		
		後援・協賛		補助・助成		
事業協力・協定		委託				
活動指標（上記「事業概要」に対応）		単位	区分	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(計画)
①	基本設計	箇所	計画		1	
			実績		1	
②	地質調査	箇所	計画		1	
			実績		1	
③	測量調査	箇所	計画		1	
			実績		1	
成果指標（上記「意図」に対応）		単位	区分	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(計画)
①			目標			
			実績			
②			目標			
			実績			
③			目標			
			実績			
成果指標の達成度	目標値より高い		概ね目標値どおり		目標値より低い	

成果指標の達成度の要因分析 (新規事業及び成果指標を変更した場合は、その成果指標を設定した考え方、目標値の根拠を記載)		
目的 妥当性	公共関与の妥当性	障がい児・者への適正な保育・療育支援は公共的課題である。
	<input type="radio"/> 妥当である	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input type="checkbox"/> 妥当でない	
有効性	成果の向上余地	施設が整備されるまでは利用人数を増やすことができない。
	<input type="checkbox"/> 向上余地がある	
	<input type="radio"/> 向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	指名競争入札により、経費削減の余地がある。
	<input type="radio"/> 事業費の削減余地がある	
	<input type="checkbox"/> 人件費の削減余地がある <input type="checkbox"/> どちらも削減余地がない	
公平性	受益と負担の適正化余地	障がい児・者が通所する施設整備に向けた準備を行うことができた。
	<input type="checkbox"/> 受益機会の見直し余地がある	
	<input type="checkbox"/> 費用負担の見直し余地がある <input type="radio"/> 適正である	
総合評価 …上記評価結果の総括		
現在のイーハートブ養育センターは、老朽化、狭あい化により児童発達支援機能に限界があることから、今後予定している施設整備にかかる基本設計及び諸調査を行った。		

平成 27 年度 事業説明資料

【 事後評価 】

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計	款	項	目	事業コード	事業名
一般	03	02	01	0412	イーハートブ養育センター整備事業

単位：千円

		26年度 決算額(A)	27年度 決算額(B)	28年度 現計予算額	決算額前年比 (B-A)
事業費			15,389		15,389
財源内訳	国・県				
	地方債				
	その他		2,115		2,115
	一般財源		13,274		13,274

事業期間	単年度繰返	○	期間限定	[平成 27 年度 ~ 平成 28 年度]
------	-------	---	------	-----------------------

部重点施策における目標
障がい者が自立した生活を送っています。

事業開始の背景・経緯

現在の障がい児通所支援施設は老朽・狭隘化・災害時の動線の悪さから、適正な施設整備を求められている。一方、社会資源が少なく他市町からの利用（特に重症心身障がい児・者については、ともに受入先が少ない）もある。

事業概要

○児童発達支援施設の整備
イーハートブ養育センターの施設整備にかかる基本設計及び諸調査（地質調査、測量調査）等を行う。

事業を展開する上での課題、留意事項 / 意見・要望等

現在の利用者および施設の重症心身障がい児・者の保護者団体「ぼっぼの会」から、受け入れ機能の拡充を求められている。
周辺に類似施設がなく当市以外からも利用者があり、圏域的なニーズがある。
これまで本施設についてはこどもの城構想の枠組みであったため、単体としての整備について関係機関への説明会を開催した。
事業主体の法人が国庫補助事業を活用した整備が望ましい。

担当部署 部名 健康福祉部 課名 障がい福祉課 担当課長 永田有紀子 内線 502

(単位：千円)

《事業手法の詳細》…概略図による事業手法の詳細と事業費の内訳を記載すること。
【適宜、セルは結合して構わないが、結合した1つのセル内は1文章程度にとどめること。】

(実施事業)
1児童発達支援「イーハートブ養育センター」:定員30、在籍38人
2放課後等デイ「さくら」:定員10名、在籍28人
3多機能事業所「こすもす」:定員5名、在籍17人(医療的ケア)
:重症心身障がい児の児童発達及び放課後デイ、重症心身障がい者の生活介護
4保育所等訪問
5児童発達相談支援
(経緯)
S50:保護者主体によりスギノコ土曜学園として開始
S54:市が社協に事業委託、市民の家に移転
S55:総合福祉センター完成と同時に市民の家から移転、養育センター開所
H13:福祉センターの増改築
(利用者)83名の利用者のうち他市町(北上、遠野、金ヶ崎、紫波)から22名が利用
[H28.3.31現在]

イーハートブ養育センター
施設整備

(課題)老朽化、狭隘化、動線的に避難困難、拡張スペースに限界、日照環境の課題、感覚統合や自閉症向け設備がなく児童発達支援機能に限界がある設備。

新)イーハートブ養育センター

(実施事業)
1児童発達支援「イーハートブ養育センター」:定員30人(最大45人受入)
2放課後等デイ「さくら」:定員20人(最大30人受入)
3多機能事業所「こすもす」:定員10人(最大15人受入)
4保育所等訪問:専任配置し充実
5児童発達相談支援:現行維持
(利用者)最大90名の利用が可能(現行定員45人の2倍規模)
感覚統合、スヌーズレン等、児童発達支援を充実。動線を確保。重症心身障がい児・者の日中の受入機能を拡充。

H27執行実績
・基本設計業務委託 8,046千円
・測量業務委託 2,074千円
・地質調査業務委託 2,625千円
・造成工事実施設計業務委託 2,185千円
・分筆図書作成業務委託 459千円
類似施設:県内医療型児童発達支援施設
○県立療育センター
H29に医大隣へ移転予定だが、定員はそのまま。医師の確保が課題。
とんざん支援学校も同時移転の予定。就労支援、訓練、相談支援等が拡充されるが、重心や児童発達は特段の機能拡充はない。
○みちのく療育園
拡張予定なし